

学校現場から悲鳴が聞こえる

第19回「文武両道の進学校と言うけれど」

公立高等学校の男女別学校の数が全国で1位とも言われる群馬県。近年は統廃合によって共学化が進みつつありますが、依然として8市1郡で別学校があります。地域ではいわゆる「進学校」と言われ、特に国公立大学や難関私立大学の合格数がとにかく話題となります。合格数が競わされているとも言えますが、こうした進学校が抱える問題点を取り上げました。

記者 進学校でも地域によっての特徴や事情もあり、ひとくくりに進学校の問題点を語るのは難しいと思いますが、先生の学校ではどうですか。

余裕のない生活を強いられている

Vさん 進学校は大学進学実績で評価されてしまうので、どうしても進学指導に重点が置かれます。難関大学の入試問題の予習など本当に気を遣いますし、日々の授業も生徒の求める高みを達するにはそれなりの努力がいります。授業の進度と対応したプリントもしくは問題集による宿題を生徒に出します。英語、数学が中心ですが、国語も少なくありません。5月の連休や長期休業の時は、それこそ膨大な課題が出ます。授業準備や部活指導をこなしながら教員も大変ですが、生徒も家庭での生活時間を極めて余裕のないものにしていきます。成績上位者でもなかなか大変なようです。

記者 放課後課外はどうなっていますか。

Vさん 学校によっていろいろですが、私の学校では1、2年生は放課後の進学課外はしていません。部活動の時間を保障するためです。部活加入率は8割を超え、多くは運動部です。高校総体の成績上位校は進学校が多いのですが、文武両道は群馬の公立進学校の誇りなのでしょう。これは私立の進学校との大きな違いではないでしょうか。そのことは公立進学校の生徒の生活時間をさらに厳しくしている要因でもあります。

驚くというか感心してしまうのは文武両道を立派にこなすスーパーマンのような生徒も少なくはありません。教員は自分の都合で指導内容や方法を工夫できますが、生徒は合わせるしかありません。自分のペースが作れない生徒は苦しいはずですが。

記者 入試制度がめまぐるしく変わったりしますが、現場での混乱などはありませんか。

アクティブラーニングに不満

Vさん 最近困っているのは大学入試センター試験に代わる新テストの具体的なイメージがつかめず、近未来的にどのような進学指導をしたらいいのかが分からないことです。文部科学省は「アクティブラーニング」(注1)の導入と定着に力を入れ、私の学校にもその荒波が押し寄せていますが、これを実践に移すと生徒たちには不評で、あからさまに不平不満を述べたりします。

記者 どのような形で不満を言うのですか。

Vさん 学校評価アンケートにいろいろ不満が書かれます。要するに限られた時間の中で最大限の知識を吸収するために、学び合いのような緩い方法は困るということです。生徒や保護者に見れば、受験を視野に入れた勘所を押さえた授業をすべきということのようです。したがって学習の主軸を塾にシフトしたりする生徒も少なくはありません。ただ、生徒たちは討論自体は嫌いではなく、ディベート(注2)やビブ

リオバトル(注3)には進んで参加します。アクティブラーニングによって自ら学ぶ姿勢を育てることは大切ですが、どの学校にも一律に適用できる教育スキルというものはないように思います。

記者 生徒の姿が少し見えてきました。先ほど部活も学業もしっかりとこなすスーパーマンのような生徒がいる一方で、苦しんでいる生徒もいると言っていました。とりわけ進学校ということでの問題があるとしたらどういうことでしょうか。

一人ひとりの生徒の成長に寄り添いたい

Vさん 計画的効率的に生徒の力を引き出すとするあまり、一方的な価値観や方法を押しつけ、無理矢理ついてこさせている感じがします。本来のアクティブラーニングはこうした弊害を打破することを目指していると思いますが、そのアクティブラーニングさえ世界に通用する有為の人材を作る手段と化していると思います。あらかじめ決められた進学校のカリキュラムや年間計画に生徒を押し込め、3年間で受験に対応できるような力をつける、一方で文武両道の理想的な青年像を生徒に求めているのではないのでしょうか。

保護者や地域社会の期待も重いものがあります。こんな感じだと、どうしても視野が狭くなり、ある枠のなかにはまった指導しかできなくなってしまいます。超個性的な生徒への対応や学校にうまく適応できない生徒への対応では、物差しの当て方を変え、その子にあった指導をしっかりと時間をかけてみんなで探していくようなシステムができればいいのですが。現状では何ともあいまいな対応をした後で、本人や保護者の希望でサポート校に進路変更するということになってしまいます。

一人ひとりの生徒の考えや希望をじっくりと聞き、いろいろな機会を通して生徒の姿を見つめ、その成長に寄り添うように助

言していく、つまり見守ることと対話の必要性を感じていますが、時間的精神的余裕はほぼ無いと言っていいでしょう。

ちょっとダークなイメージを語ってしまいましたが、実は学校評価アンケートでは生徒も保護者も学校への満足度は極めて高いです。辛いけれど楽しい、無理は承知の3年間というわけです。何とか凄いことができたというプライドは並大抵のものではないようです。

記者 進路希望の実現に向けて、教員の惜しみない努力と生徒たちの努力の凄さを感じましたが、一方で時間的余裕のない両者の実態もよく分かりました。進学実績数に縛られ、教育本来のあり方を追及しづらい教員の苦悩が見えたのではないかと思います。



注1 教員が講義形式で一方的に教えるのではなく、生徒たちが主体的に、仲間と協力しながら課題を解決するような指導・学習方法

注2 特定のテーマについて、賛否の2組に分かれて討論を行う

注3 参加者同士で本を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める